

～法案が成立した医療保険制度改革（1）～

神戸市職員信用組合相談員

(社)FP 税務・社会保険制度研究会 理事 小澤昭彦

医療保険制度改革に向けた健康保険法などの改正法は29日の参院本会議で可決、成立しました。

以下は厚生労働省が発表している今後の医療保険制度改革です。項目によって開始時期が違っているのと、共済組合の保険制度での適用時期にタイムラグがあるので、今後の実施開始時期に注意が必要です。

今回の医療保険制度改革のポイント

基本の考え方

将来にわたり我が国の医療保険制度を持続可能なものとしていくために、現役世代を中心に**保険料負担の上昇を抑制**しながら、全世代を通じて、**医療保険制度に対する信頼や納得感を維持・向上**させる観点から、給付と負担の見直しを行います。

主な改正内容

日常的な医療に用いる医薬品の保険給付の見直し

保険を使って医療用医薬品の処方を受ける場合と保険を使わずOTC医薬品で対応する場合の公平性を踏まえ、OTC医薬品でも代替可能な医薬品の保険給付の範囲を見直します。

後期高齢者医療制度における金融所得の公平な反映

後期高齢者医療制度において、上場株式の配当等の金融所得を、確定申告をするかしないかの選択にかかわらず窓口負担や保険料負担に勘案することで、**不公平を解消**します。

長期に治療が必要な方のセーフティネット機能の強化

高額療養費の月単位の自己負担は、将来にわたり制度を維持するため、**医療費の伸びや所得に応じて負担**いただきますが、医療費の自己負担に、**新たに年間上限**を設け、治療にいくらかかるかわからないという不安に対応し、**長期にわたり治療が必要な方のセーフティネット**としての機能を強化します。



妊娠・出産に対する支援の強化

妊娠・出産にかかる費用の見える化をさらに進め、**出産の標準的な費用**（手術などが必要になった場合の追加負担や希望により選択するサービスを除く）に**自己負担がかからない**ようにするなど、**妊婦健診や出産の経済的負担の軽減**を進め、**安心して出産できる環境**を整えます。

子育て世帯の保険料負担軽減

国民健康保険において、被保険者数に応じて課される保険料（均等割保険料）を子どもについて半減する措置の対象を、**未就学児から高校生年代まで**広げます。

今回は、市販薬と成分や効能が似た「OTC 類似薬」を処方された患者に薬剤費の 25%の追加負担を求める制度について解説します。

公的医療保険の給付を抑え、現役世代の社会保険料の軽減につなげる狙い。

厚労省は追加負担の対象として、解熱消炎鎮痛剤ロキソニン錠や花粉症治療に用いるアレグラ錠などの 77 成分、約 1100 品目を想定しています。

来年 3 月の開始を目指しており、窓口負担が 3 割の患者の場合、薬剤費の自己負担額は現在の 1.6 倍に増えることになりそうです。

政府は、医療費は約 900 億円削減でき、社会保険料は 1 人当たり年約 400 円減ると試算しているようです。

★OTC 類似薬の薬剤給付の見直しについて（厚生労働省）

保険を使って医療用医薬品の処方を受ける場合と保険を使わず OTC 医薬品で対応する場合の公平性を踏まえ、日常的な医療に用いる、OTC 医薬品でも代替可能な医療用医薬品の保険給付の範囲を見直します。

OTC 類似薬の薬剤給付の見直し

保険を使って医療用医薬品の処方を受ける場合と保険を使わず OTC 医薬品で対応する場合の公平性を踏まえ、日常的な医療に用いる、OTC 医薬品でも代替可能な医療用医薬品の保険給付の範囲を見直します。



制度のポイント

鼻炎、胃痛、痛み止め、肩こり、風邪症状などの日常的な医療に用いる医療用医薬品の一部について、特別の料金（薬剤料の4分の1）がかかります。



子どもやがん患者・難病患者などには、特別の料金について配慮措置を検討します。

医療用医薬品の自己負担額のイメージ（3割負担の場合）

	医療用医薬品（薬剤料のみ）		（参考）OTC 医薬品
	見直し前	見直し後(注)	
解熱鎮痛薬（5日分）	45円	72円	約500円
去痰薬（5日分）	45円	72円	約1,500円
便秘薬（30日分）	360円	570円	約2,000円
抗アレルギー薬（30日分）	540円	855円	約1,000円

注 実際の負担額は各医薬品の薬価や特別の料金への消費税などにより異なる場合がある。



※ 医療用医薬品の場合、別途初診料や調剤基本料等の技術料が生じる。
 ※ 医療用医薬品は、例示した医薬品のうち最もシエアの高いものの額を記載
 ※ OTC 医薬品は、医療用医薬品と代替可能なものうち確認できた範囲におけるネット上での最安の額を記載